

衆議院経済産業委員会ニュース

平成 28. 4. 20 第 190 回国会第 7 号

4 月 20 日（水）、第 7 回の委員会が開かれました。

1 原子力発電における使用済燃料の再処理等のための積立金の積立て及び管理に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 17 号）

- ・林経済産業大臣、鈴木経済産業副大臣、星野経済産業大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・山際大志郎君外 3 名（自民、民進、公明、おおさか）提出の修正案について、提出者落合貴之君（民進）から趣旨説明を聴取しました。
- ・原案及び修正案に対し、真島省三君（共産）が討論を行いました。
- ・修正案について採決を行った結果、賛成多数をもって可決されました。
（賛成—自民、民進、公明、おおさか 反対—共産）
- ・修正部分を除く原案について採決を行った結果、賛成多数をもって可決され、本案は修正議決すべきものと決しました。
（賛成—自民、民進、公明、おおさか 反対—共産）
- ・山際大志郎君外 2 名（自民、民進、公明）から提出された附帯決議案について、本村賢太郎君（民進）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもってこれを付することに決しました。
（賛成—自民、民進、公明、おおさか 反対—共産）

（質疑者及び主な質疑内容）

阿部知子君（民進）

- ・我が国が保有するプルトニウムをこれ以上増やさないようにするためには、プルサーマルで使用するプルトニウム量と再処理によって生ずるプルトニウム量のバランスが重要であると考えているが、林経済産業大臣の見解を伺いたい。
- ・使用済燃料の取扱いについて、本改正案によって再処理に固定化されないことの担保について林経済産業大臣に伺いたい。

落合貴之君（民進）

- ・平成 28 年熊本地震における被害状況と政府の対応策について伺いたい。
- ・MOX 燃料価格が高騰しているとの報道を踏まえ、核燃料サイクル政策について判断をしていく上で、コストの試算を行うことが重要であると考えているが、政府の認識を伺いたい。

逢坂誠二君（民進）

- ・核燃料サイクルを実施することにより、新たに高レベル放射性廃棄物及び使用済 MOX 燃料が発生することを踏まえ、使用済燃料と高レベル放射性廃棄物のみを比較し、核燃料サイクルのメリットを主張することの妥当性について伺いたい。
- ・これまでの質疑を踏まえて、改めて核燃料サイクルに対する林経済産業大臣の所感を伺いたい。

中根康浩君（民進）

- ・本改正案により、使用済燃料の取扱いが将来的に再処理に限定されるとの懸念もあると考えるが、核燃料サイクル政策の柔軟性を確保し、再処理に固定化しないことを林経済産業大臣に確認したい。
- ・核燃料サイクルを巡る状況変化に鑑み、本改正案において「5 年」とされている本法の見直し規定を「3 年」に修正するべきではないか。

藤野保史君（共産）

- ・政府は核燃料サイクルを進める意義の一つとして放射性廃棄物の減容化を掲げるが、低レベル放射性廃棄物を含めた場合、再処理をした方が直接処分よりも放射性固体廃棄物が多くなることについて、政府の見解を伺いたい。
- ・使用済燃料の再処理に係る費用について、電力自由化後の託送料金に入れ込むことを政府は検討しているとの報道があるが、その事実関係について政府の見解を伺いたい。

足立康史君（おおさか）

- ・原子力政策の推進に向けた林経済産業大臣の決意を伺いたい。
- ・平成 28 年熊本地震の発生を踏まえて、政治的判断により政府が原子力発電所の出力調整、あるいは運転停止を行うことが制度上可能であるのか伺いたい。